

4 海洋プラスチックごみをへらそう!

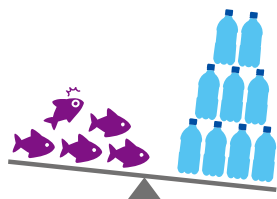


プラスチックごみで海がよごれています!

海にあるごみのほとんどは、わたしたちがくらす陸上で発生して、道路の溝や川をとって海に流れ着いたものです。

その中でもとくに多く見られるプラスチックごみは、海をよごすだけでなく、魚や鳥がまちがって食べてしまうなど、生き物にも影響をあたえており、世界中で問題になっています。

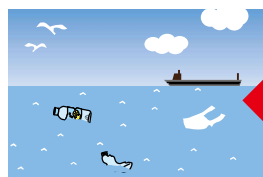
海に流れこむプラスチックごみがこのままふえ続けると、2050年には、海でくらす魚の量よりもプラスチックごみのほうが多くなってしまうとも言われています。



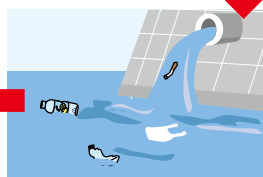
ポイ捨てされたごみがそのままにされる



ごみが雨風で川や道路の溝に流れ込む



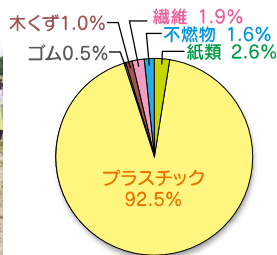
街でポイ捨てされたごみが、海をよごす



川から海に流れる



ラプアース・クリーンアップの海岸清掃の様子

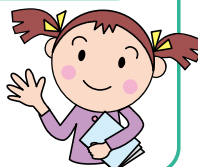


海岸清掃で集めたごみの中身(生の松原海岸)
(令和元年6月調査)

きれいな海を守るためにも

1. ポイ捨てをしない
2. 海に流れる前にまちを清掃する
3. プラスチックごみを出さないように工夫する

できることから
始めることが
大事だね。



魚をとるあみにかまいったウミガメ

「環境省平成29年度漂着ごみ対策総合検討業務」より抜粋

解説

- ★日本に限らず、世界中で問題とされる海洋プラスチックごみについて、自分たちが何ができるのか考えさせてください。
- 波や紫外線による劣化などの理由で5mm以下になった微細なプラスチックを「マイクロプラスチック」と呼び、これを生き物がえさと間違えて食べることにより生態系に影響を与えることが心配されています。
 - すでに海に広がってしまったマイクロプラスチックの回収は困難です。これ以上の汚染を防ぐためには海に流出するプラスチックごみの量を減らすしかありません。

ポイ捨てごみをなくそう



環境シンボルキャラクター
エコッパ

まちに落ちているのはだれのごみ?

ごみのポイ捨てをしてはいけません。ごみのポイ捨てはまちだけでなく、海や川をよごすことにもつながります。

ところで、まちに落ちているのは、だれかがわざと路上に捨てた“ポイ捨てごみ”だけでしょうか。たとえば、屋外のごみ箱からあふれてしまったビニール袋やベンチに置きわすれたペットボトル、ポケットから落ちた紙くずなど……。



外で出たごみは
できるだけ家に持ち帰ってから、
捨てるようにしましょう!

自分ではポイ捨てをしたつもりがなくても、もしかするとまちや海や川をよごしてしまっているかもしれません。



みんなでいっしょに取り組もう! まちをきれいにする わたしたちの取り組み

身近な清掃活動



学校のみんで…
まちの清掃活動に参加しています。



まちぐるみで…
町内の清掃に参加しています。



市民が協力して…
毎年、6月ごろに行うラプアース・クリーンアップで、
海岸や川の清掃をいっしょに行っています。



福岡市も…
道路や川の清掃を定期的に行っています。



解説

- ★私たちの町のあらゆる場所で、住みよいまちづくりのために美化活動が行われていることや、一人ひとりが住みよい環境をつくるための努力をすることが大切であることに気付かせてください。
- 道路の清掃…福岡市は、市内の主要幹線道路やごみ処理場の周辺などを定期的に清掃しています。
 - 河川の清掃…福岡市は、那珂川、御笠川、博多川の3河川を満潮時に清掃しています。